

令和元年 6 月 25 日開催

石狩市教育委員会会議（6 月定例会）資料

<協議事項>

- ・教育委員会の点検・評価（平成 30 年度分）について 別冊

<報告事項>

- ・石狩市教育委員会基礎データについて 別冊
- ・令和元年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について P 1
- ・石狩小学校校舎利活用検討委員会からの意見書について P 2～P 9

石 狩 市 教 育 委 員 会

<報告事項②>

令和元年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について

1 目 的

市の教育目標の達成及び今日的教育課題を解決するため、専門的知識や実践的指導力など、教職員に求められる資質の向上を図る。

2 主 催

石狩市教育委員会

3 期 日

令和元年7月26日（金）～ 8月2日（金） 計5日間 10講座

4 対 象

市内小中学校教職員（養護教諭、栄養教諭、事務職員、期限付教諭含む）

5 受講方法

選択性（一人1講座以上） 学校毎に取りまとめメールで申込み 締切り：7月1日（月）

※希望は第3希望まで記入→①②③、複数参加を希望する場合は①を記入

※サマーセミナー特別講座については、1講座受講とカウントしない。

6 受講料

無料

7 日程・内容・会場・参加人数（予定）

期 日	午 前	午 後
7月26日 （金）	特別支援教育 【内容】「算数の苦手な子どもの指導を考える」 ～特別支援教育の視点から～ 【講師】北海道教育大学札幌校 准教授 齊藤 真善 氏 【時間】10:00～12:00 （40名程度） 【会場】りんくる	サマーセミナー特別講座 教育課程 【内容】「メンター研修」 【時間】13:30～15:00 （60名程度） 【講師】双葉小学校教頭 林 克哉 氏 【会場】りんくる
7月30日 （火）	危機管理 【内容】「危機管理・AEDの活用」 【講師】石狩市防災まちづくり協会 事務局長 中川 昌時 氏 主査 三浦 仁志 氏 【時間】10:00～12:00 （40名程度） 【会場】りんくる	いしかり学 【内容】「いしかり歴史ヒストリア」 【講師】石狩市教育委員会文化財課長 工藤 義衛 氏 【時間】13:30～15:30 （40名程度） 【会場】八幡小に集合後、バスで巡ります
7月31日 （水）	教育課程 【内容】「道徳の授業の実際」 【講師】北海道立教育研究所 研究研修主事 高木 志磨人 氏 【時間】10:00～12:00 （40名程度） 【会場】りんくる	教育課程 【内容】「プログラミング教育における授業の実際」 【講師】さくらインターネット㈱ 朝倉 恵 氏 プログラミングプロジェクト 緑苑台小主幹教諭 宮本 賢一 氏 【時間】13:30～15:30 （30名程度） 【会場】りんくる（予定）
8月1日 （木）	いしかり学 【内容】「手話授業を通じて伝えていきたいこと」 【講師】石狩聴力障害者協会会長 杉本 五郎 氏 保健福祉部障がい福祉課主事 氏家 峻 氏 【時間】10:00～12:00 （40名程度） 【会場】りんくる	いしかり学 【内容】「躍進する石狩湾新港の今とこれから」 ～北海道最大級の工業流通団地～ 【講師】石狩開発㈱ 営業推進役 高島 健 氏 【時間】13:00～16:10 （40名程度） 【会場】りんくるに集合後、バスで巡ります
8月2日 （金）	生徒指導 【内容】「児童虐待の防止について」 【講師】北海道中央児童相談所 主任児童福祉司 笠原 香代 氏 【時間】10:00～12:00 （40名程度） 【会場】りんくる	子どもの読書活動の推進 【内容】「読書教育」～読む力は学びの基盤～ 【講師】札幌市立上白石小学校司書教諭 北海道学校図書館協会研究部長 山田 佳子 氏 【時間】13:30～15:30 （30名程度） 【集合】市立図書館（視聴覚ホール）

※ 複数講座の受講も可能です。

<報告事項③>

石狩小学校校舎利活用検討委員会からの意見書について

令和元年6月21日

石狩市教育委員会
教育長 鎌田 英暢 様

石狩小学校校舎利活用検討委員会
委員長 村山 耀一

意 見 書

石狩小学校校舎利活用検討委員会設置要綱第2条第1項に基づき、別添のとおり石狩小学校校舎の利活用に関する意見を提出します。なお、今後計画を具体化するに当たっては、下記の事項に配慮されるよう要望します。

記

- 1 施設内容の詳細を検討する際には、珍しい円形校舎の特徴を十分に生かすよう取り進められたい。
- 2 石狩といえば鮭というイメージを踏まえ、鮭に関する展示については、歴史・文化だけでなく、生物としての観点からも検討されたい。
- 3 石狩文化の発信にも寄与できるよう、円形校舎の企画展示室においては、石狩ゆかりの芸術作品の展示にも対応できる設備とすることを検討されたい。
- 4 館内は、案内や解説パネルの多言語表記やバリアフリー化など、できるだけ誰もが利用しやすい施設となるよう配慮されたい。
- 5 来館する人や車の動線も考慮しながら、歴史ある校舎の再利用施設にふさわしい外構整備についても配慮されたい。
- 6 屋外運動場は石小利活用施設として考えるとその使用目的を見出すことは難しいが、利用方法にかかわらず周辺環境が維持されるよう適切に管理されたい。

以上

石狩小学校校舎利活用プラン

石狩小学校校舎利活用検討委員会

1. これまでの経緯などについて

石狩小学校と八幡小学校が来年 4 月に統合し、統合後は現在の八幡小学校の校舎を使用することから、石狩小学校校舎は使われなくなります。

現在の石狩小学校校舎は、昭和 31 年（1956 年）に建設された円形校舎とその後に増築された校舎及び体育館から成りますが、なかでも円形校舎は北海道内で最初に建設され、唯一現役で使用されていて、子どもたちはもとより地域の方々にも「缶詰校舎」として長く親しまれてきました。学校統合に向けた地域との話し合いの中で、この建物の保存を望む声が多かったことを踏まえ、石狩市教育委員会は、統合後の石狩小学校校舎を「まちの歴史文化を後世に伝える」歴史館的な施設として保存・活用する方向性を打ち出しました。

そして、より具体的な利活用方法について検討するため、平成 30 年 7 月に本委員会が設置されました。本委員会では 6 回にわたる会議と一般からの意見募集、意見交換会を経て石狩小学校校舎の利活用案をとりまとめ、このたび意見として提出するものです。

2. 石小利活用施設といしかり砂丘の風資料館の位置付けについて

石狩小学校のある本町地区は、多くの文化財が残された「石狩発祥の地」であるとともに、「はまなすの丘公園」、海水浴場「あそびーち石狩」や「番屋の湯」など特徴的な観光資源に恵まれています。さらには、本町地区には既に「いしかり砂丘の風資料館」があり、石狩小学校校舎を歴史館的に利活用する施設（以下「石小利活用施設」といいます。）ができると、近接して同種の施設が立地することになります。こうしたことから、本町地区という立地環境を踏まえつつ、「石小利活用施設」と「いしかり砂丘の風資料館」の位置付けを検討しました。

（別紙「石狩小・砂丘の風資料館の位置付け」参照）

＝基本となる考え方＝

① 2 館 1 セットで石狩の歴史・自然を伝える

石狩市は大きく「石狩」「厚田」「浜益」の 3 地区に分けられますが、厚田を中心とした歴史や自然は「道の駅石狩あいりーど厚田」で、ニシン漁を中心とした浜益の歴史は「はまなす郷土資料館」で展示しています。石狩地区の歴史や自然はこれまで「砂丘の風資料館」で展示してきましたが、必ずしも十分なスペースが確保できていないと思われます。

このことから、今後は「石小利活用施設」と「砂丘の風資料館」の 2 館がそれぞれ機能を分担して、石狩地区の多様な歴史と自然をしっかりと伝えることが必要です。

②砂丘の風資料館＝本町地区の歴史展示＋本町地区ガイダンス

砂丘の風資料館は、本町地区の歴史資源が集まる「弁天歴史通り」の入り口に位置し、隣には明治時代の石造り店舗である「旧長野商店（市指定文化財）」が復元展示されています。砂丘の風資料館ではこれらの環境を生かし、石狩地区の中でも特に本町地区を対象を絞り込んだ歴史展示を行うことが適当です。

また、砂丘の風資料館は「番屋の湯」とも近接しているので、資料館から番屋の湯入浴客に対して積極的に本町地区の魅力を発信し、本町地区観光へと誘導する、新しい役割についても検討すべきです。なお、本町地区には下表のとおり、集客能力が高い観光資源に近接した公共施設が他にもあります。本町地区を挟み込むようにして立地するこれら3つの施設が、目的地の観光資源を訪れる客に、本町地区の風土や歴史などの魅力を伝え、地区内の「ついで回遊」を喚起することができれば、固有の歴史・自然遺産を活かした本町地区の活性化も期待できます。

観光資源	集客時期	近接する公共施設
番屋の湯	通年	いしかり砂丘の風資料館
はまなすの丘公園・石狩川河口	主に春～秋	はまなすの丘公園ビジターセンター
あそびーち石狩	7～8月	海浜植物保護センター

③石小利活用施設＝石狩地区（本町除く）の展示＋博物館機能の中核

砂丘の風資料館と2館1セットで石狩地区の魅力を伝えるため、石小利活用施設は、石狩地区のうち本町以外の地区に関する歴史・自然、さらに石狩の学校史についての「展示」と「発信」を行う必要があります。また、十分なスペースが確保できる廃校舎という条件を活かし、これまで市内で不足していた歴史・自然ボランティアや各種の講座、さらに文化財行政などの「活動」文化財資料の「収蔵」の拠点として、石狩市における博物館機能の中核を担うようにすることが適当です。

なお、石狩小学校増築校舎の1階部分は、老朽化が著しい放課後児童クラブ「つくしクラブ」の移転先として利用することが市の方針となっているため、本委員会の検討対象から除いています。

3. 石狩小学校校舎の利活用案について

石小利活用施設が前記のような役割を果たすために備えるべき機能を、円形校舎、増築校舎、屋内体育館とに分けて、次のように考察しました。

（別紙平面図参照）

＝円形校舎部分（約1,100㎡）＝

円形校舎は石狩小学校のシンボルであり、石小利活用施設の最大のアピールポイントになります。このため、円形校舎に展示機能を基本的にすべて集約し、今の各室を活用して、石狩の歴史や自然をテーマにした次のような展示を行うことが適当です。なおその際は、砂丘の風資料館の一部展示を円形校舎に移設する必要も生じると考えられます。

- ① 道内屈指の石狩小学校の歴史に関する展示や円形校舎の特徴を活かした手法の検討
- ② これまでに市内で統廃合された学校の説明を中心に、石狩市の学校史を解説する展示
- ③ 閉校時使用されていた教室をそのままの形で保存展示。平成の学校の雰囲気伝えるとともに、実際の会議、小規模の講義、団体客のガイダンスなどにも使用できるようにする。
- ④ 石狩市域のアイヌや明治時代に八幡町来札に集団移住させられた樺太アイヌの歴史や文化などについての展示
- ⑤ 縄文時代のサケ漁遺跡など、石狩で発掘された考古資料についての展示
- ⑥ 市内各地への開拓・入植など村落の形成と変遷についての展示
- ⑦ 花川や樽川など住宅団地開発に関する展示
- ⑧ 砂地での水田開発、樽川の大規模有畜農業、石狩油田など石狩の特徴的な産業史に関する展示
- ⑨ 石狩の地形・地質、動植物、海など自然に関する展示
- ⑩ 企画展示室；上記①～⑨の常設展示とは別に、期間を設けて特定のテーマを取り上げた展示を行う。企画展示室は石狩文化の発信に寄与できるよう、石狩ゆかりの芸術作品の展示も可能な設備を検討する。
- ⑪ パティオ＝2階のホールに本棚やベンチを置き、図書の閲覧や少人数の歓談、軽飲食などに利用できるようにする。
- ⑫ 展示や館内のサイン類の多言語による表示について配慮する。

上記の展示のほか、円形校舎には事務室、軽作業室などの管理用諸室も必要になると思われます。

＝増築校舎 2 階部分（約 500 m²）＝

増築校舎の2階は水回り設備があり火気も使用できる理科室、コンピュータ教室、音響面に配慮された音楽室などがあるため、これらの諸室の特徴を生かして次のような利活用を想定します。

- ① 実験や調理などの体験学習や各種研究を行ったり、ボランティアが活動拠点として利用できる体験学習室
- ② 50～70 人程度を収容し、会議、講演会、研究会などを開催できる講堂
- ③ 温湿度管理が必要な貴重資料を収蔵する特別収蔵庫

＝屋内体育館（約 1,000 m²）＝

屋内体育館は広い運動場にトイレ、器具室、準備室などが附属しているため、収蔵庫としての利用をメインとして、付属諸室を書庫、写真撮影スタジオ、採集した生物の解剖や解体処理作業を行う実験作業室などに利用します。

4. いしかり砂丘の風資料館のリニューアルについて

「2. 石小利活用施設といしかり砂丘の風資料館の位置付けについて」②のとおり、今後、いしかり砂丘の風資料館に「本町地区の歴史展示」と「本町地区ガイド」の機能を導入するためには、次のようなりニューアルが必要になると思われます。

- ① 展示内容の見直し：いしかり場所に始まる本町地区の歴史展示を充実させ、それに関係しない展示は石小利活用施設に移すなど展示内容を見直すとともに、2 階部分の展示スペースを拡大する。
- ② インフォメーションコーナーの開設：砂丘の風資料館の 1 階に、本町地区の観光情報など「まちにいざなう情報」を発信し、誰でも無料で利用できるインフォメーションコーナーを開設する。

5. その他

（1）やはた丸について

石狩渡船は、明治 5 年の開設から石狩河口橋の完成まで、長い間本町と八幡町・厚田方面を結ぶ交通の大動脈でした。昭和 34 年に就航し、53 年の廃止まで石狩渡船で活躍した「汽船やはた丸」は、石狩の交通史を語る上で欠かせない資料です。長い間一般の目に触れない環境で保管されてきた「やはた丸」を、石小利活用施設の整備を機に、この敷地内で復元・展示することが適当と考えます。

（2）反映されていない意見について

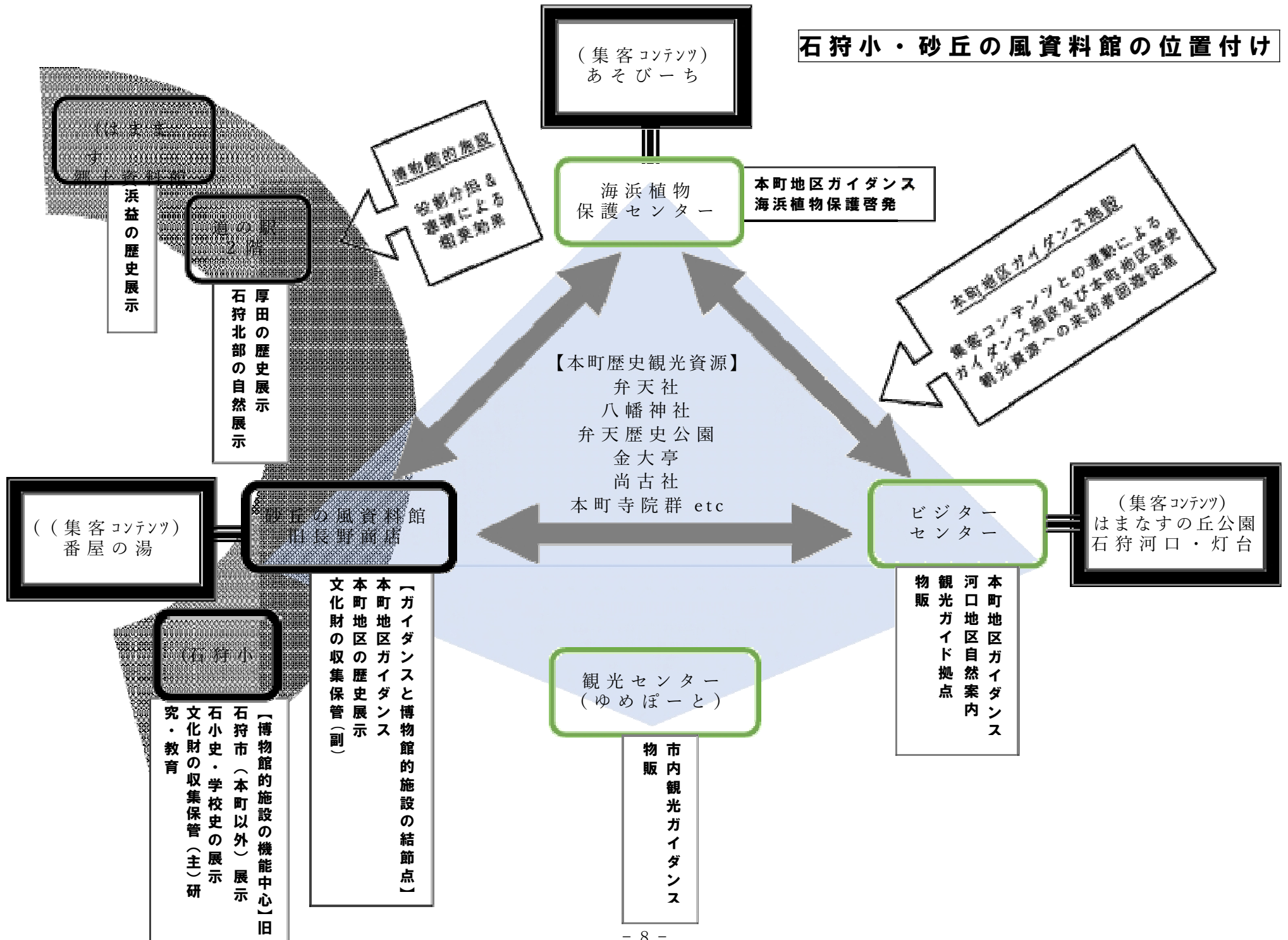
これまで検討委員会では様々な議論が行われ、委員の意見の多くはこの利活用プランに反映されていますが、中には反映できなかった意見もありました。反映されていない主な意見とその理由は次のとおりです。

- ① 本州で廃校を宿泊施設に利用して成功した事例がある。稀少な円形校舎に宿泊できれば大きな反響と集客効果が望めるので、一部の部屋を宿泊用にしてはどうか
（反映されていない理由）
 - ・石小利活用施設が「まちの歴史文化を後世に伝える施設」として機能を発揮するためには、「3. 石狩小学校校舎の利活用案について」で示したような展示、収蔵、活動のスペースが必要であり、宿泊用の部屋を確保する物理的な余裕がない。
 - ・本町地区にはそれほど大きな宿泊需要がない中で、既に民営の宿泊施設が存在している。石小利活用施設に宿泊機能を導入することは、市による民業圧迫になるおそれがある。
 - ・石小利活用施設の運営は市の直営とするのが現実的だが、市には宿泊施設を運営するノウハウがない。現に過去、第三セクターによるホテル経営に失敗した事例がある。
- ② 本町地区内外の住民が交流したり、イベントを開催できるような多目的な施設としてはどうか
（反映されていない理由）
 - ・石小利活用施設は「まちの歴史文化を後世に伝える施設」とすることを前提としており、施

設の性格を根本的に変えることはできない。

- ただし、円形校舎の教室保存展示やパティオ、増設校舎の講堂など、人々の交流やイベントに活用できるスペースは確保しているので、これらを活用しやすいような管理運営を行うことで意見の趣旨は生かされる。

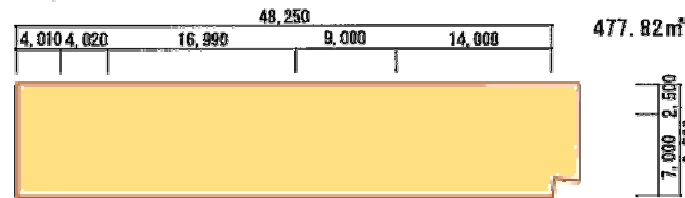
石狩小・砂丘の風資料館の位置付け



石狩小学校の再利用（案）

- ・建物全体を資料館として再利用する
- ・円形校舎部分は、資料展示スペース
- ・円形校舎以外は、資料・収蔵品の保管場所
- ・斜線部は、放課後児童クラブとして利用

（主に収蔵・整理・実習講座
約1,500㎡



2 階 平 面 図

放課後児童クラブとして利用
（床面積：272.68㎡）

1 階部分

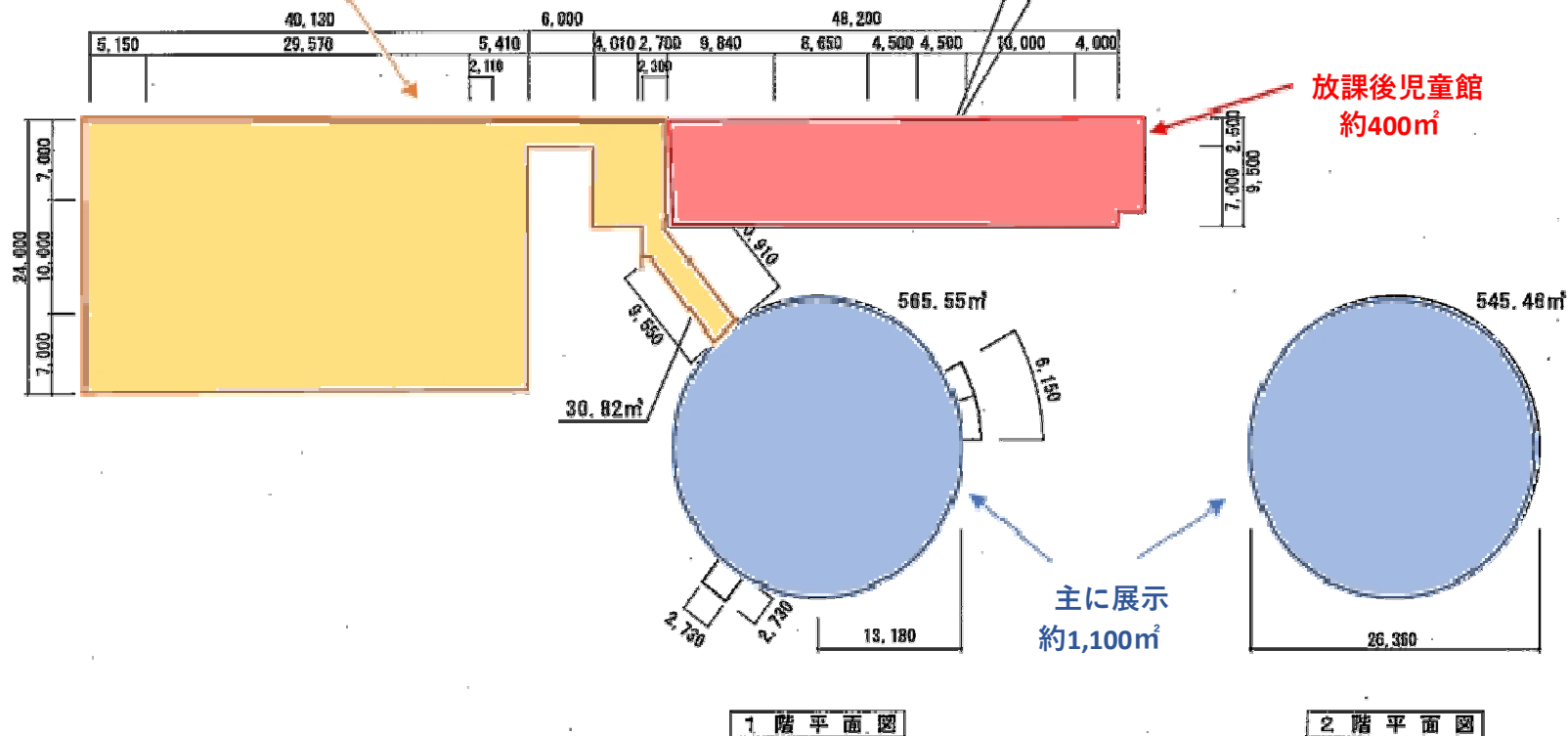
円形校舎：565.55㎡
渡り廊下：30.82㎡
1階校舎：492.82㎡
1,089.19㎡

2 階部分

円形校舎：545.48㎡
2階校舎：477.87㎡
1,023.33㎡

屋内体育館：960.49㎡

合 計 3,073.01㎡



1 階 平 面 図

2 階 平 面 図